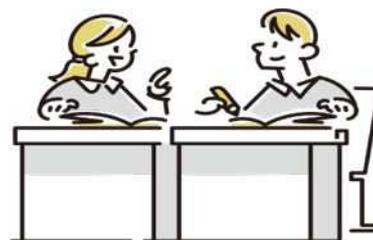


浜田教育センター教育相談スタッフ

子どもたちの 「かかわりの力」は？



特別支援学級には在籍していなくても、特別な支援が必要な子どもや様々な特性のある子どもたちが各学級に増えていると感じられる先生方も多いのではないのでしょうか。それに加え、この数年間のコロナ禍によるかかわりの制限もあり、各学級では子どもたち同士の間関係づくりに苦慮しているとの声もききます。授業づくりにおいて、子どもの特性に応じた個別最適な学びが求められていますが、子どもたちが安心して安全に学ぶことができる環境づくりや仲間づくりも非常に重要です。

そんな中、先生方は学級づくりや仲間づくりについてどのように感じておられるのか、新任教職員研修、教職経験者研修にてアンケートにご協力いただきました。その一部をご紹介します。

Q. 現在、学級づくりや児童生徒の仲間づくりで難しさを感じておられるのはどんな点でしょう。

〈アンケートからの抜粋〉

- ・生徒のコミュニケーションスキルの低下・児童同士の関わり場の設定
- ・自分の気持ちを上手く相手に伝える、受け止めて関わるのが難しい
- ・子ども同士の関係づくり、コミュニケーション能力の育成・言葉遣いが乱暴
- ・生徒同士がつながることが難しい・生徒同士が人間関係を形成することの難しさ
- ・かかわりをもととする生徒が少なく、授業でのグループ学習がなかなか上手くいかない

浜田教育センター教育相談スタッフでは、今年度の共同研究として「学校現場の『学級づくり』を支える教育センターの取組」と題し、その中で名城大学曾山先生が提唱されている「スリンプル・プログラム」について研究しています。6月の能力開発講座「学級づくり仲間づくり講座」の講義の中で曾山先生は「かかわりが人を癒やし、かかわりが人を育てる」と述べておられます。

このスリンプル・プログラムは子どもたちに「かかわりの機会・場」を安全な形で提供し、「かかわりの力」を育むことを目指しています。小・中・高の各学習指導要領の総則には、「学習や生活の基盤として、教師と児童（生徒）との信頼関係及び児童（生徒）相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」が示されており、そのためのひとつの具体的方策となるのではと研究を進めています。

これをやればすぐに学級が変わるというものではありませんが、毎週1回10分の〇〇タイムと、その時間と関連させる「各教科でのペア・グループワーク」を続けることによって、子どもたちの「かかわりの力」をじわじわと育てていきます。県内で実際に取り組まれている学校では、成果が表れている学校もあります。うまくためのポイントなどやうまくいかないのはこういったところが課題となっているのかといったことも見つけることができればと考えています。

ご興味がおありの方、ご協力いただける先生方、是非お問い合わせください。

